

(ブリマス＝ニュートン・アボット)	2.38%	2.4km
南部管区ブラウントン勾配	2.5	2.4
南部管区モレホエ＝イルフラコベ勾配	2.7	3.2

(8) 橋梁(きょうりょう) もっとも著名な橋梁はつぎのとおり。

ローヤル・アルバート橋(Royal Albert Bridge) 西部管区サルタシュ付近のタマール河に架設された橋梁、Isambard Brunel が1858年建造したもので、単線、全径間の長さ732m、主要径間は長さ139mで2個あり、水面よりの高さ30.5m、鉄製桁構(けたかまえ)から成る。

ローヤル・ボーダー橋(Royal Border Bridge) ウィック付近のトウイード河に架せられた橋梁、長さ658m、最長の径間は18.7m、28の石造径間から成り複線、水面よりの高さ30m。この橋はロバート・スチーブンソン(Robert Stephenson)によって設計され、ビクトリア女王時代の1850年に開通した。

チャリング・クロス橋(Charing Cross Bridge) ロンドンにおいてテムズ河に架せられた橋梁。7線をもっていることで著名。長さ418m、水面よりの高さ10m。

フォース橋(Forth Bridge) スコッチッシュ管区のエジンバラ付近のフォース河に架せられた橋梁。全長2,215m、石造橋脚に鋼鉄製桁木を架したもので、最長の径間518m、複線、水面よりの高さ47.6m、1890年の建設で当時世界最長の橋梁として著名であった。

(9) 隧道 もっとも長い隧道は西部管区のブリストル＝サウス・ウェールズ間のセパー河トンネル(長さ7,012m)で、つぎはシェフィールド＝マンチェスター線のトットレイ・トンネル(長さ5,715m)である。

(10) 車両(1954・12・31現在)

機関車

蒸気機関車	18,420 両
電気機関車	71
ディーゼル電気機関車	294
ディーゼル機関車	22
石油機関車	2
ガスタービン機関車	2
狭軌機関車	5

客車

蒸気列車用客車	36,085
“ 食堂車	698
“ 寝台車	432
電気列車用客車	4,570
“ 食堂車	62
旅客以外使用客車	15,847

貨車

1,109,690

4 職員および労働

イギリス鉄道は1954年現在およそ58万人の職員を擁している。これら職員は給料被用者(salaried staff)と賃金取得者(conciliation staff)に大別される。給料被用者は年俸をもって給料を定められている者で、管理部門の一般事務職員、技術員および現場の長・主任・監督者がこれに相当する。賃金取得者は週給をもって賃金を定められている者で長・主任を除く一般現場職員がこれに相当する。

イギリス鉄道は20世紀の初めから従業員の労働組合として鉄道従業員全国組合(National Union of Railwaymen)、機関士・機関助手連合組合(Associated Society of Locomotive Engineers and Firemen)および鉄道書記組合(現在の運輸給

料被用者組合: Transport Salaried Staffs' Association)の3組合をもっている。つぎにこれらの組合の概要を述べる。

鉄道従業員全国組合 イギリス運輸委員会の鉄道企業に雇用されるすべての賃金取得職員を対象とする組合であって、組合員の賃金および労働条件を改善し、その利益を擁護し、雇用主との間に起る紛争を解決するために活動するものである。

本組合の歴史は古く1871年に創設された鉄道労働者連合組合(Amalgamated Society of Railway Servants)がその前身であって、1913年に当時存在した5つの組合のうち機関士・機関助手連合組合および鉄道書記組合を除く3つの組合の統合によって鉄道従業員全国組合が組織されたのである。

鉄道従業員全国組合の活動は主として第1次世界大戦後に始められ、機関士・機関助手連合組合と共同して強力な闘争を行い賃金の引上げ、労働時間の短縮に関する全国的協定の締結と労使交渉機関の設置を経営者に認めさせることに成功した。

1926年ゼネストを行ったため組合は財政的窮乏に陥り、さらに1929年には世界的不況の波及によって賃金の引下げが行われたためきわめて困難な時期を経過した。1937年組合は最低賃金獲得のため活動し、1945年に至って大人男子従業員の週給84シリング6ペンスと労働時間1週48時間を44時間に短縮させることを得た。

1947年運輸法によって鉄道が国有化された際、鉄道従業員全国組合はそのまま新組織に引継がれた。現在組合員は機関車乗務員を除くすべての運輸委員会の鉄道企業に雇用される賃金取得従業員を包含し、その数39万人に達している。

組合執行部はロンドンに本部組織をおき、全国15地区に地方組織をもっている。

機関士・機関助手連合組合 鉄道機関士・機関助手、電車運転士および庫内手を対象とした従業員組合である。1880年発足したもので最初はおよそ14人の組合員を有するに過ぎなかったが、漸次発展して1953年現在およそ7万5千人となっている。

賃金、勤務条件の改善に関する闘争は第1次世界大戦後活発に展開され、1920年には1日8時間労働、休憩時間・有給休暇の設定、疾病、老年および死亡に対する補償金の改善等の諸原則を含む全国的労働条件を承認させることに成功した。

本組合の最高機関は代表者年次大会であって、地区別に毎年選出される60名の代表者が出席する。組合の事務は10名の委員(このうちから毎年委員長を選出する)から構成される執行委員会によって管理される。代表者は各地区から選出される者であるが、ロンドン運輸および路面電車の運転士も代表者を送っている。組合の活動目標は他の組合とだいたい同様であるが機関車乗務というとくに危険な業務に従事している関係上、業務遂行上こうむる傷害、疾病、労働不能、退職、死亡等の場合の現金による補償金獲得、病氣療養中の扶養手当の獲得等に重点をおいている。

運輸給料被用者組合 1897・5 ショフィールドにおいて鉄道書記組合として発足したものである。最初組合員数は1万人未満に過ぎなかったが、第1次世界大戦後8万7千人に急増し、1953年現在およそ9万2千人となっている。鉄道国有化ののち運輸給料被用者組合と改称された。

本組合はイギリス運輸委員会の下に運営される鉄道、ロンドン運輸、ドック・内陸水路、道路運送、ホテル・食堂、港湾の各企業に雇用される給料被用職員を対象とする組合であって、長・主任・監督者および年俸752ポンド15シリング以上1,775ポンドまでの給料を受ける古参職員のための交渉機関に参加することを認められている。